

# 令和 7 年度活動報告

令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人 福島県レクリエーション協会

## 1 令和 7 年度活動の概要

令和 7 年度は、突然の事務所移転を余儀なくされた年であり、また令和 5 年度に続き、ほぼ同額の欠損を生じた令和 6 年度からの巻き返しを図らなければならない年でした。2 年間で生じた 400 万円超の欠損は、当協会にとっては、危機的な数字であり、協会の存続のため、起死回生の一手が求められることとなりました。

事務局移転に関しては、経常外の支出も多くありましたが、事前の廃棄処分等を早めに行ったことなどにより、必要経費を最小限に抑えることができました。

収入の安定化のためには、最も大きな安定財源として考えられるレクリエーション有資格者を増やすため、「レクリエーション・インストラクター」と「スポーツ・レクリエーション指導者」の養成を行いました。レクリエーション・インストラクター養成事業は、20 年ぶりでいわき市を会場に、スポーツ・レクリエーション指導者養成事業は、例年通り福島市を会場に開催しました。いわき市においては、久しく事業がなかったこともあり、当初の見込みに近い参加者を集めることができましたが、目標としていた「両事業を合わせて 30 名の新規指導者の確保」には至りませんでした。

その他の事業のうち、事業受託、講師・スタッフの派遣については、「スポーツ推進委員東北大会」関連の事業や「県民運動 PR 事業」の一部を請け負ったことなどから、コロナ禍前ほどではないながらも、幾分改善が見られました。

また日本協会をとおした支援事業を積極的に活用し、少しでも協会の益となる事業経営を図りました。

「東日本大震災の被災者支援」については、前年度に引き続き、「ふるさとふくしま交流・相談支援事業」の助成金により、「笑顔 Again！ 応援隊」の活動を続けてまいりました。

## 2 令和7年度活動状況

### 令和7年度（2025年度）事業一覧

特定非営利活動法人 福島県レクリエーション協会

#### 1 事業

大項目の事業（定款第5条）		開催期日等	備考
中項目の事業			
小項目の事業			
1 レクリエーションの普及・奨励事業			
1 県民スポーツ・レクリエーション講座等開催事業			
1 あそびの素材市場開催事業			
1 パタンク・プール教室		10月5日	福島市 20名 2026/3/8 設立 県レク入会
<p>数年前に消滅してしまったパタンク協会に替わるパタンク・プール連盟の立ち上げに向けて、パタンクの競技人口を増やし、正しい競技方法を伝達するための講習会を開催する。</p> <p>評価基準： 教室への参加者20名以上 パタンク・プール連盟の設立準備の開始</p> <p>実績評価： 参加者20名を確保3月8日団体設立、2026年度県レク入会。</p>			
2 マンカラ教室		3月7日	福島市 25名 指導員登録 4名
<p>世界標準のボードゲームとしてのマンカラを普及できる普及員を拡大し、マンカラの売り上げに貢献できるようにする</p> <p>評価基準： 教室参加者数 20名以上、新規資格登録者数 5名以上 年間のマンカラ売り上げ数 5台以上</p> <p>実績評価： 大会同時開催の教室参加者数25名、新規登録者数4名で目標には至らなかったが、年間のマンカラ売り上げ台数は12台となり、目標を大きく超えることができた。</p>			
3 冬でも楽しいレクダンス		2月23日	福島市 16名
<p>参加者が多く見込めるレクリエーションダンスの講習会を実施し、参加者会費収入の増に貢献する</p> <p>実績評価： 参加者数16名、十分な資金確保につながらなかった。</p>			
2 レクリエーションセミナー開催事業			
1 コミュニケーションワーク研修会		10月19日	福島市 18名
<p>レクリエーション活動をコミュニケーションワークととらえ、それを活用できるレクリエーション指導者を拡大する</p> <p>評価基準： 参加者数 20名以上</p> <p>実績評価： 参加者数18名は予測以上に低調な結果であった。</p>			
2 グループワーク・トレーニング		11月16日	中止 申込者4名
3 ホスピタリティ・ワークショップ		1月18日	福島市 16名
<p>レクリエーション支援におけるホスピタリティの深化を図る</p> <p>評価基準： 参加者数 10名以上</p> <p>実績評価： 参加者数16名、次年度のR1養成にもつながった。</p>			
3 その他の県民レクリエーション講座開催事業			
2 健康スポーツ普及推進事業			
1 健康スポーツ活動普及事業			
1 ラダーゲッター教室（日レク委託事業／大会に合わせて開催）		6月15日	福島市 13名 登録2名
<p>日本協会が進める健康スポーツ「ラダーゲッター」の普及を図る</p> <p>評価基準： 教室参加者数 20名以上、新規資格登録者数 5名以上 参加者数、新規資格登録者数とも目標に届かず、開催趣旨を再検討し、一般県民にアピールできる事業にすることが必要。</p>			
2 チャレンジ・ザ・ゲーム教室（日レク委託事業）		9月27日	郡山市 18名 登録10名
<p>遊びが運動になる、運動が遊びになるチャレンジ・ザ・ゲームを様々な場面で活用できる普及員を拡大する</p> <p>評価基準： 教室参加者数 20名以上、新規資格登録者数 10名以上</p> <p>実績評価： 教室参加者が課程認定校頼り。アウトリーチなどの普及方法の検討が必要。</p>			
3 ニチレクボール教室（日レク委託事業）		2月1日	福島市 16名
<p>日本協会が進める健康スポーツ「ニチレクボール」の普及を図る</p> <p>評価基準： 教室参加者数 20名以上、新規資格登録者数 10名以上</p> <p>実績評価： 新資格として登録はされたものの参加者自体が少数。時期的なものを検討し、普及を図る必要がある。</p>			

大項目の事業（定款第5条）		開催期日等	備考
中項目の事業			
小項目の事業			
	2 子どもの体力向上事業 助成事業を検索しながら、内容について検討する。	通年	助成事業なく 中止
	3 健康寿命延伸のための健康スポレクひろば開催支援事業（日レク委託事業） 県内の老人クラブにはたらきかけながら、健康寿命の延伸につながる「健康スポレクひろば」を実施する 評価基準： 受託件数 2件以上 実績評価： 受託件数は予定どおり、さらに拡大したい。	通年	2件 国見町 二本松市 東和地区
	4 その他の健康スポーツ普及推進事業		
	3 音楽レクリエーション普及推進事業		
	4 全国一斉あそびの日支援事業 日本レクリエーション協会が進める全国一斉あそびの日キャンペーンに賛同し、参加事業を拡大する。 評価基準： 参加事業 30件以上 実績評価： 参加事業32件は、全国2位。今後も継続したい。	9月13日 ～11月16日	県内各地 32件
	5 チャレンジふくしま県民運動推進事業 福島県が進めるチャレンジ福島県民運動に賛同し、参加事業を拡大する。 評価基準： 参加事業 30件以上 実績評価： 参加事業は30件となり、目標を達成できたほか、ワーキンググループへの参加、PRイベントへの派遣等、大きな実績を上げることができた。	通年	県内各地 30件
	6 健康長寿ふくしま推進事業 福島県が進める健康長寿ふくしま推進事業に賛同し、担当部署のニーズに合わせた活動を展開する 評価基準： 会議等への参加協力 実績評価： 全会議に出席し、県担当課との関係も良好。	通年	
	7 レクリエーション普及振興功労者等顕彰事業 各種表彰事業へ該当する者を推薦する 評価基準： 下記1における表彰実施と2、3への推薦 評価基準： 計画どおりの推薦ができた。	適時	
	1 福島県レクリエーション協会会長表彰事業	8月30日	いわき市 9名
	2 日本レクリエーション協会理事長表彰推薦事業	10月31日	名古屋市 2名
	3 文部科学省生涯スポーツ振興功労者推薦事業	10月16日	東京都 1名
	4 その他の顕彰事業（内閣府「エイジレス章」顕彰）	10月1日	福島市 1名
	8 その他の普及・奨励事業		
	2 レクリエーションに関する各種大会等の開催事業		
	1 第45回福島県レクリエーション大会開催事業 第45回福島県レクリエーション大会をふくしまレクリエーションフェスタ2025（福島県スポーツ振興基金助成事業）として開催する 評価基準： 関係事業を含めた参加者数 延3,000人以上 実績評価： いわき市及びいわき市レク協会には十分な協力をいただいたが、関係事業を含めた参加者数は目標には届かなかった。多くの県民が参加しやすい会場選定が必要。	8月30日 ～10月12日	いわき市 ほか 2,394名
	2 第14回ラダーゲッター交流選手権大会開催事業 日本レクリエーション協会が進めるラダーゲッターの大会を開催し、健康スポーツとしてのラダーゲッターを広く普及する 評価基準： 参加者数 30名以上、うち一般参加者 10名以上 実績評価： 参加者数は目標に届かず、開催趣旨を再検討し、一般市民にアピールできる事業にすることが必要。	6月15日	福島市 13名 登録2名
	3 第14回マンカラ交流選手権大会開催事業 世界標準のボードゲームであるマンカラの普及を図る 評価基準： 小・中学生の参加者数 40名以上、 成人の参加者数 20名以上 実績評価： 青少年会館との共同事業がなくなり、参加費を徴収することとなったためか、小・中学生の参加者数が激減。その割に成人の参加者数が減らなかったのは幸い。今後はこのレベルで推移することをベースに事業計画を考える必要がある。	3月7日	福島市 小・中学生 8名 成人 17名

大項目の事業（定款第5条）		開催期日等	備考
中項目の事業			
小項目の事業			
4	全国健康福祉祭「ウォークラリーチーム」推薦派遣事業 福島県老人クラブ連合会と連携し、 全国健康福祉祭にウォークラリーチームを派遣する 評価基準： 予選会参加 10チーム以上、派遣 1チームを確保 実績評価： 予選会参加チームは、7チームにとどまったが、 県内各地からの参加があり広がりが見えた。	予選会5/25 全国大会 10/18 ～10/21	予選会 福島市 7チーム 全国大会 岐阜県 1チーム
5	スポレクEXPO～健康スポーツ・フェスティバル開催事業（日レク委託事業） 日本レクリエーション協会が実施するスポレクEXPOに賛同し、事業を実施する 評価基準： 参加者数 延500人以上 実績評価： フェスタ体験広場として実施、参加者も多かった。	8月31日	いわき市 延800名
6	その他の大会開催事業		
3 レクリエーションに関する人材の養成・資格審査・登録事業			
1	レクリエーション・アカデミー2025開催事業（福島県スポーツ振興基金助成事業） 日本レクリエーション協会が認定し、当協会の指導者会員となる レクリエーション・インストラクターを養成する 評価基準： 参加者数 20名以上 実績評価： 参加者数はあったものの、後半になるほど欠席が多く、 資格につながらなかった参加者への対応が課題。	7月13日 ～10月12日 8回	いわき市 33名 延141名 Av≒18名
2	スポレク・アカデミー2025開催事業（福島県スポーツ振興基金助成事業） 日本レクリエーション協会が認定し、当協会の指導者会員となる スポーツ・レクリエーション指導者を養成する 評価基準： 参加者数 20名以上 実績評価： 参加者が圧倒的に少ない。抜本的な改革が必要。	10月25日 ～12月7日 8回	福島市 7名 延57名 Av≒7名
3	レクリエーション・サポーター養成セミナー開催および講習会認定促進事業 日本レクリエーション協会が認定するレクリエーション・サポーターを育成する 講習会を開催し、レクリエーション指導者への入り口を拡大するとともに、 県内で開催される各種講習会の認定を進める 評価基準： 講習会の開催 1件以上、講習会の認定 3件以上 サポーター登録者 10名以上 実績評価： 単独講習会の開催は無し。講師トレーニング受講者の 前向きな姿勢が問われる。講習会の認定3件、 サポーター登録20名もまだ十分とは言えない。	通年	県内全域
4	レク・インストラクタースキルアップガイダンス開催事業 日本レクリエーション協会認定資格を有するレク・インストラクターが、 可能なスキルアップに挑戦できるよう、スキルアップ制度のあらままと、 学習内容について解説し、実力の底上げを図る 評価基準： 参加者数 10名以上 実績評価： 参加者数はギリギリ、内容を精査し、スキルアップ 試験の合格につながるような継続的な支援も必要。	4月29日	福島市 11名
5	レクリエーション有資格者研修会開催事業 日本レクリエーション協会認定資格を有する指導者に対しそのスキルアップを 図るための研修会を開催する 評価基準： 参加者数 20名以上 実績評価： 参加者の集まりが悪い。内容は必要課題であるため、 方向性としてはこのまま進めたい。時期的な課題も考慮し、 他事業との連携も検討の必要がある。	7月6日	福島市 12名
6	講師トレーニング事業 レクリエーション指導者養成事業における講師を養成するためのトレーニングを 行い、レクリエーション指導者の実力を底上げする 評価基準： 参加者数 10名以上 実績評価： 参加者数は基準を超えているが、 内容の理解を促す工夫がまだ不足している。	7月21日	福島市 13名
7	レクリエーション有資格者資格審査・登録事業 レクリエーション・インストラクターおよび、スポーツ・レクリエーション指導者の新規登録 を進める 評価基準： 一般養成における新規登録者 延30名以上 評価基準： 日本協会の計画は新規登録30名。本県では、R I、SRの 重複登録者を含め30名に達しない。R I、SRそれぞれに、 ポイントをしばった広報、はたらきかけが必要。	随時	福島市 新規登録 20名

大項目の事業（定款第5条）		開催期日等	備考
中項目の事業			
小項目の事業			
8	その他の人材養成等事業		
1	<p>【新規】福島県ユーストレーニング2025（子どもゆめ基金助成事業）</p> <p>地域の子ども会や少年団体等、子どもの活動を支援する青年やJRC等のボランティアで活動する青年層に対して、必要な知識と技術を伝達するとともに、レクリエーションの魅力を伝え、将来のレクリエーション指導者を育てる。</p> <p>評価基準： 参加者数 10名以上</p> <p>実績評価： 名簿上は10名を超えてはいるものの、毎回の欠席者も多く、各回の参加者は半分程度。子ども会との連携のほかJRCとの連携も検討し、若いレク関係者を増やすため、より一層の注力が必要。</p>	6月21日 ～2026年 2月21日 10日間	須賀川市 15名 延58名 Av≒6名
2	その他の人材育成事業		
4	レクリエーションに関する支援者・援助者の派遣事業		
1	講師等派遣事業費		
1	<p>通常講師派遣事業（人材派遣、収益事業）</p> <p>外部からの講師派遣依頼に応じて、適切な講師を派遣する</p> <p>評価基準： 有料派遣件数 20件以上、 スタッフ等派遣事業と合わせて50万円以上の収益</p> <p>実績評価： 派遣件数は若干回復し27件、うち有料派遣事業は14件、 収益額は12万ほどで、さらにPRを継続する必要がある。</p>	通年	県内各地 27件
2	KOKOプロ365による派遣事業（日本レクリエーション協会無償派遣事業）	通年	中止
2	スタッフ等派遣事業（人材派遣、収益事業）		
	<p>外部からのイベント開催、およびスタッフ派遣依頼に応じて、適切な対応を図る</p> <p>評価基準： 有料派遣件数 5件以上、 講師等派遣事業と合わせて50万円以上の収益</p> <p>実績評価： 有料派遣件数はスポーツ推進委員東北大会の影響で6件、 収益額は34万円ほどで、人材派遣全体としては 未だ回復には至っていない。</p>	通年	県内各地 6件
3	その他の人材派遣事業		
5	レクリエーションに関する組織の育成・強化事業		
1	<p>地域レクリエーション協会設立入会支援事業</p> <p>地域（市町村）レクリエーション協会の設立を支援し、当協会の団体正会員として迎える</p> <p>評価基準： 新規地域レクリエーション協会の設立入会</p> <p>実績評価： 喜多方市レクリエーション協会の設立の支援をしているが、 未だ設立に至らず。</p>	通年	
2	<p>新種目団体設立入会促進事業</p> <p>新しい種目団体にはたらきかけ、当協会の団体正会員として迎える</p> <p>評価基準： 新規団体正会員の入会 1件以上</p> <p>実績評価： 新規団体正会員として、バタンク・プール連盟が設立され 次年度に入会予定。一方、2団体の退会もあり、 さらに入会促進の必要がある。</p>	通年	
3	<p>種目指導者養成講習会等支援事業</p> <p>団体正会員が開催する、指導者・審判等を新規に養成講習会等への支援を行う</p> <p>評価基準： 支援事業 1件以上</p> <p>実績評価： 支援の申し出はなかったものの、 事業としてはなくすことができないと思われる。</p>	通年	
4	その他の組織育成・強化事業		
6	レクリエーションに関する調査・研究・啓発・宣伝事業		
1	<p>レクリエーションふくしま発行事業</p> <p>レクリエーション有資格者、および当協会に関連する機関・団体等に対して、 イベント情報を主とした情報を発信し、事業参加者数を確保する</p> <p>評価基準： 発信回数 3回以上</p> <p>実績評価： 発信回数3回では、年度後半の広報が弱い。 その分mail、SNSの活用が必要。</p>	5月、7月、 10月	年間3回発行
2	<p>ホームページ等更新事業</p> <p>ホームページ、Facebook、Instagram、X（旧Twitter）、LINE、YouTube等を 随時更新し、多くの県民に最新情報を発信する</p> <p>評価基準： 毎月1回以上の更新</p> <p>実績評価： 時に更新が遅れることがあったので、 今後はできるだけ速やかな更新に努めたい。</p>	通年	

大項目の事業（定款第5条）		開催期日等	備考
中項目の事業			
小項目の事業			
3	福島県レクリエーション協会将来計画検討協力者会議 若手有資格者を中心とした協力者会議を開催し、福島県レクリエーション協会の将来像を検討する 評価基準： 年間2回以上 実績評価： 3月にzoomでの顔合わせができたのみ、次年度以降、より積極的な会議が必要となる。	通年	3月16日～
4	その他の調査・研究・啓発・宣伝事業		
7 レクリエーションに関する諸団体との連携・調整・協力事業			
1	団体正会員事務局長会議開催事業 団体正会員の経営の先頭にある事務局長等、事務担当者の参集を得て、当協会の情報を提供し、それぞれの団体の情報交換を行うとともに、コンプライアンスの意識を高める 評価基準： 年間1回以上の開催 実績評価： 開催はしたものの、参加率が低く、フェスタに関しても十分な約束事の徹底ができなかった。	6月1日	福島市 27団体中 11団体
2	課程認定校連携支援事業 日本レクリエーション協会が指導者資格取得の課程を認定している専門学校に対して支援を行うとともに、新規課程認定校獲得のため、情報提供等を行う 評価基準： 各課程認定校に対し、年間1回以上の支援 実績評価： 課程認定校会議はこれまでにない手ごたえあり。各課程認定校に対する支援も順調に推移した。	通年	課程認定校 会議 2月26日
3	北海道・東北ブロック協議会派遣事業 北海道・東北ブロック協議会の会議に、役職員を派遣する 評価基準： 事務局1名以上の派遣 実績評価： 事務局1名分の予算で、2名が参加。	6月22日 ～6月23日	宮城県
4	全国運営代表者会議派遣事業 日本レクリエーション協会が開催する全国運営代表者会議に、役職員を派遣する 評価基準： 事務局1名以上の派遣 実績評価： 事務局1名分の予算で、2名が参加。	12月9日 ～10日	東京都
5	その他の連携等事業		
8 レクリエーションに関する用具・書籍等の斡旋貸与事業			
1	レクリエーションサービスセンター運営事業 日本レクリエーション協会のカタログ等を配布し、レクリエーション用具等の物品販売販売（収益事業）を行う 評価基準： 50万円以上の収益 実績評価： カタログ送付には一定の効果があつたが、収益は目標までは届かなかった。	通年	カタログ送付 6月、1月
2	用具等貸与促進事業	通年	11月末で停止
3	その他の斡旋貸与事業		
9 その他、この法人の目的を達成するために必要な事業			
1	福島県レクリエーションボランティア育成・活性化サポートセンター運営事業 子ども、高齢者に対するレクリエーションボランティアの活性化を図るため、各種相談を受け付ける窓口機能を果たす 評価基準： 相談件数 10件以上 実績評価： 様々な相談が寄せられ、時には無償での支援も行ったが、収益につながる相談も多く、より広範な相談事業が必要。	通年	
2 震災復興支援事業			
1	笑顔Again! 応援隊派遣事業 （福島県ふるさとふくしま交流・相談支援事業助成） 福島県ふるさとふくしま交流・相談支援事業を活用し、東日本大震災による避難者に対する支援活動として、復興団地におけるサロン活動を支援する 評価基準： 支援件数 年間10回以上 実績評価： 予定どおりの支援ができた。参加者数を増やすため、自治会と協議しながら継続する必要がある。	通年	福島市 北中央 二本松市 石倉
2	その他の震災復興支援事業		
3	インターンシップ受け入れ事業	通年	中止
4	その他の事業		

## 2 管理

1	監査会	4月27日	福島市
2	総会	5月17日	福島市
3	理事会	11月29日、 3月14日	福島市
4	一般管理	通年	
	青少年会館解体に伴う事務局移転事業	12月1日移転	
	事務機器更新事業	印刷機更新	
	その他の一般管理事業		

## 3 各事業項目の評価及び今後の課題

### 1 レクリエーションの普及・奨励事業

レクリエーションの普及・奨励の観点からは、「参加者数」が求められる成果であるため広報に力を入れましたが、残念ながら、まだ十分ではありませんでした。一方、事業によってはそこそこの参加者もあることから、事業全体の組み直しにも取り組むたいと考えています。一般の県民に対して、さらに広く情報を届けるための工夫も継続してまいります。

### 2 レクリエーションに関する各種大会等の開催事業

県大会は、いわき市をメイン会場に、各種目団体にとって都合の良い会場での開催を可能にして実施しましたが、目標の3,000人には至りませんでした。種目数が少なかったこともさることながら、各種目団体の活動人口の減少、新しい参加者が増えないことも大きな要因であると考えられます。今後は、各種目団体において、参加者の「若返り」を意識した、日常的な活動が必要だと考えます。

### 3 レクリエーションに関する人材の養成・資格審査・登録事業

「日本レクリエーション協会公認指導者」の新規養成は、全都道府県協会において「義務付けられた事業」ではありますが、最近受講者の高齢化に加え、受講者数に頭打ちが見られます。特にスポレク指導者養成に関しては、事業成立自体に厳しいものがあります。今後は新規受講者の獲得に取り組むことが最大の課題です。

### 4 レクリエーションに関する支援者・援助者の派遣事業

講師・スタッフ等の派遣事業は、人材派遣事業として、事業収益の大きな割合を占めますが、その依頼は、件数、金額ともに、未だにコロナ禍以前までには回復できずにいます。その中であっても、令和7年度には「スポーツ推進委員東北大会」にかかわる事業や「県民運動PRイベント」にかかわる事業として、受託、スタッフ派遣の事業があり収益は向上しました。講師派遣に関しては、関係する行政、機関、団体等からの依頼が伸び悩んでおり、今後は、講師としてのレクリエーション指導者派遣の実績を増やししながら、事業収益に結びついていくことが課題です。

## 5 レクリエーションに関する組織の育成・強化事業

地域レクリエーション協会の設立支援は、喜多方（北会津地域）における協会設立が足踏みしています。時間をかけながら支援を続けてまいります。種目団体への支援に関しては、新規参加者募集や、新規指導者養成を目的とした講習会等の共同開催事業を計画しておりましたが、団体からの希望がなく、残念な結果でした。

一方、日本ペタンク・ブール連盟からの要請にこたえる形で福島県ペタンク・ブール協会が誕生し、令和8年度から当協会の団体正会員となりました。

## 6 レクリエーションに関する調査・研究・啓発・宣伝事業

「広報・宣伝」の中身としては、指導者会費を納入しているレクリエーション指導者への「レクリエーションふくしま」での情報提供、一般県民に対するホームページ、フェイスブック、インスタグラム、X等における情報提供を行ってきました。有資格者、おおよび関係者に対する広報は、日本レクリエーション協会のデータベースを活用して、電子メールやポータルサイトから、計画どおりに展開できました。

一方、関係者以外の一般県民に対する広報・PRについては、宣伝力の低さが目立ちました。報道機関の皆様のご協力を仰ぐほか、関係各機関との連携を深める中で、県民に対する広報・宣伝に、さらに力を入れていきたいと考えています。

「調査・研究」については、若手指導者の協力者会が立ち上がり、現在協会の現状分析を行いながら、2035年を目途とした中期計画の作成に入っています。

## 7 レクリエーションに関する諸団体との連携・調査・協力事業

日本協会関連の会議には、事務局から職員を派遣しました。団体正会員事務局長会議、課程認定校会議とも計画どおり開催できましたが、団体正会員事務局長会議に関しては、出席される団体が少なく、開催の意義が問われました。

## 8 レクリエーションに関する用具・書籍等の斡旋貸与事業

当協会の収益事業である「物品販売」に関わる、レクリエーションサービスセンターの運営は、主力だった書籍、用具の取り扱いがなくなり、大変厳しい状況が続いています。その状況を改善するため、市町村、おおよび関係機関等に対して、日本レクリエーション協会のカタログを年間2回配布し、物品販売収益を上げていく努力を続けていますが、現在のところ、市町村等の予算次第という状況であり、コントロールできずにいます。

また、事務局移転により、用具の保管スペースがなくなり、物品貸与事業は中止となりました。

## 9 その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

レクリエーション・ボランティアセンター事業としての様々な相談や問い合わせは、事業としては終了し、事務局の日常業務として今後も継続してまいります。

震災復興支援事業に関しては、復興事業が継続されていることもあり、参加者からの希望がある限りの継続が必要だと思われまます。